

# 札幌市内の高齢・障がい者訪問介護における 新型コロナウイルスの影響と対策についてのアンケート

札幌いちご会・札幌介助研究会

このたびのアンケートに協力いただいた事業所みなさまに心よりお礼申し上げます。  
新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、難病患者や障がい者、高齢者は感染により重篤化するリスクが高い  
ですが、生活にヘルパーは欠かせません。  
事業所の規模やサービス内容にかかわらず、事業所間での連携や考え方の共有などが必要になると考え、現  
状を明らかにして北海道、全国へ届けることを目的として行いました。

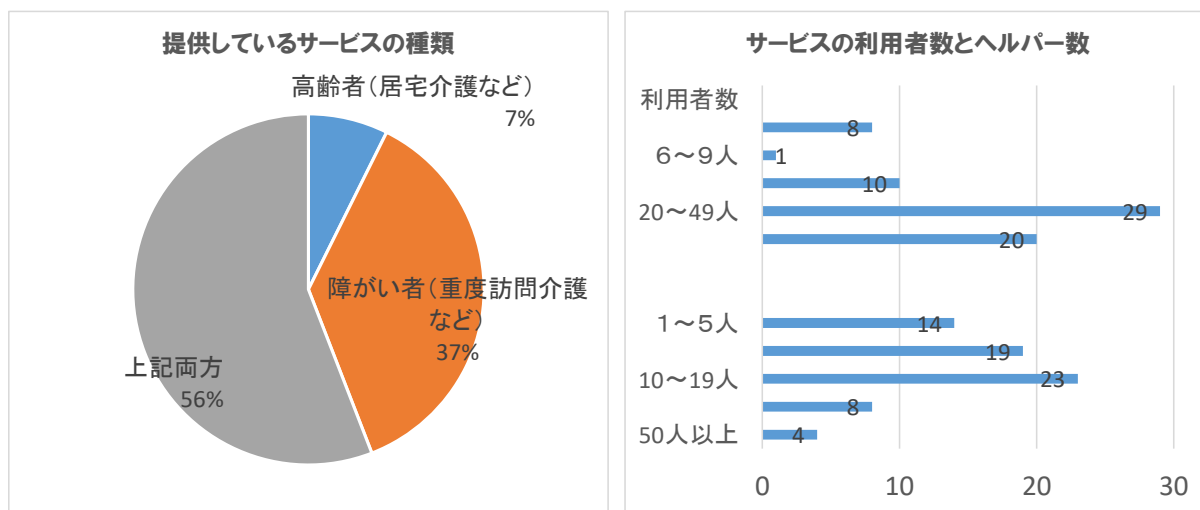
札幌いちご会 理事長 小山内美智子

## ■アンケートについて調査の設計

- ・調査対象 札幌市内の高齢・障がい者訪問介護事業者
- ・標本数 500事業所
- ・抽出方法 無作為抽出
- ・調査方法 郵送、ファクス、メール、インターネットフォーム
- ・調査期間 2020年9月1日～10月20日

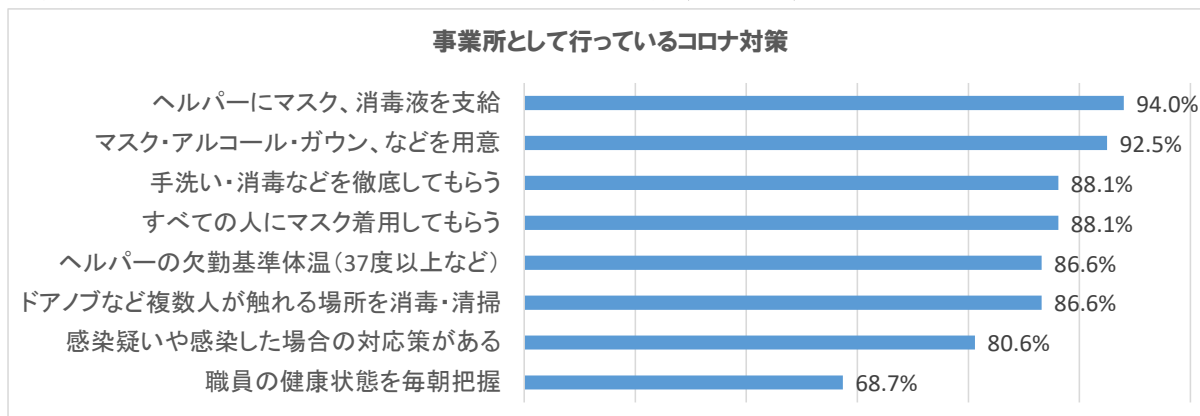
## ■回答事業所数

68事業所（回収率13.6%）

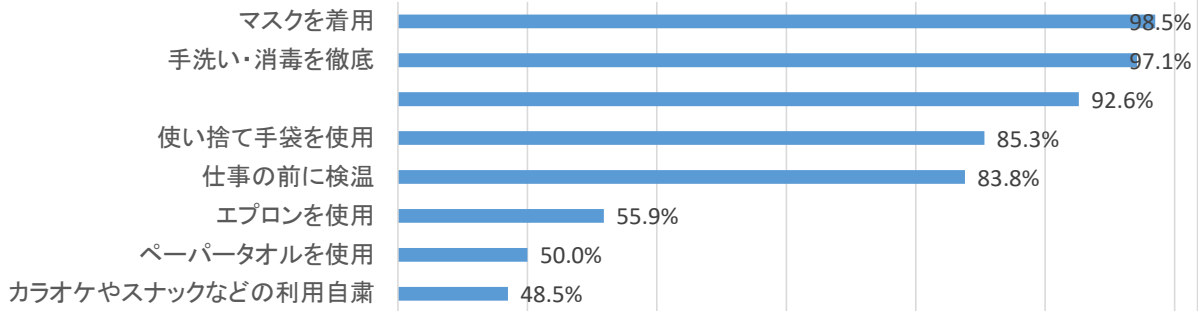


回答事業所のうち半数超が「障がい・高齢両方」で、7割近くがヘルパー数が10人以上。  
一方「障がい者」対象は7割超がヘルパー数1桁と小規模事業所でした。

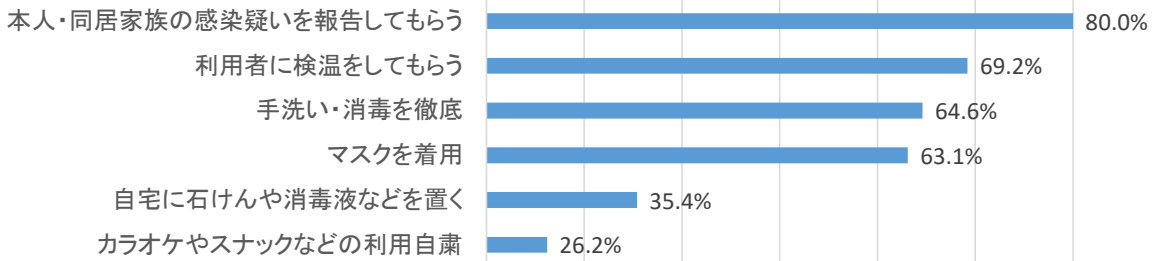
## ■事業所・ヘルパー・利用者が行っている新型コロナ対策（複数選択）



### ヘルパーが行っているコロナ対策



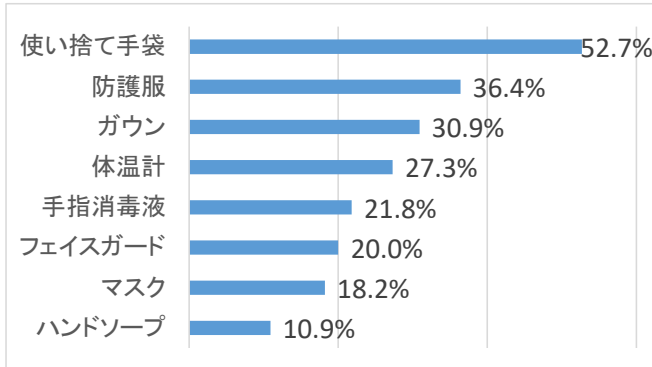
### 利用者に行ってもらっているコロナ対策



事業者側の対策は「マスク」「手洗い」「消毒」など利用者への感染予防が圧倒的。訪問時の衣類や靴下の着替え帰省や会食など外出自粛と多岐にわたり、細心の注意を払っている様子がうかがえます。

利用者側に求めている対策は、感染疑い報告や検温など「体調管理」が中心。なかには「マスクが着けられない」という回答もあり、予防策の難しさについて訴える事業所もありました。

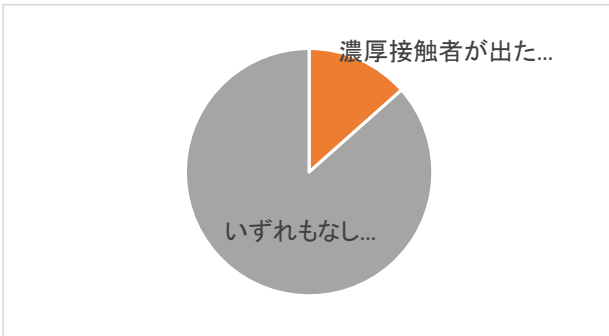
### ■物資の不足状況について(複数回答)



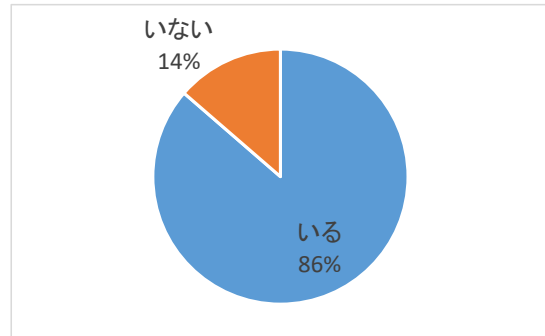
一時期、圧倒的に不足していた「マスク」は比較的手に入りやすくなった一方、使い捨て手袋・防護服・ガウンと別の防護具が不足しています。

「現在不足しているものはない」という回答もありましたが、「価格が上がっていて入手が困難になるのでは」と懸念する声もありました。

### ■コロナ感染の状況



### ■重篤化しそうな利用者は



※糖尿病、心不全、COPDなど呼吸器疾患、透析患者、免疫抑制剤や抗がん剤治療中など

本調査は感染再拡大前の9～10月でしたが、高齢者施設での感染が相次ぐ中で感染者が出た事業所はゼロ。通所やデイケアと在宅の違いはあるかもしれませんが、事業所の努力のたまものといえます。

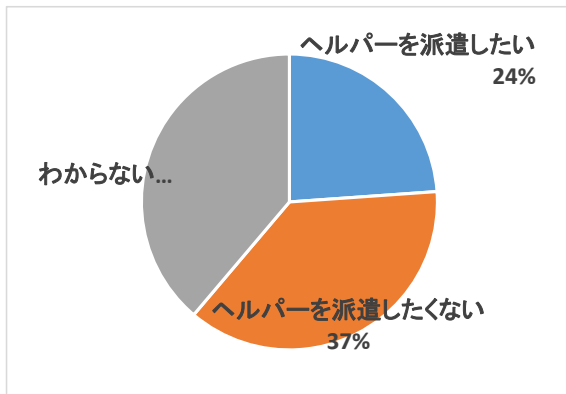
ただ、新型コロナ感染により重篤化しそうな利用者がいる事業所は86%に上り、気を抜けない状況が続いています。

### ■利用者が感染した時の対応

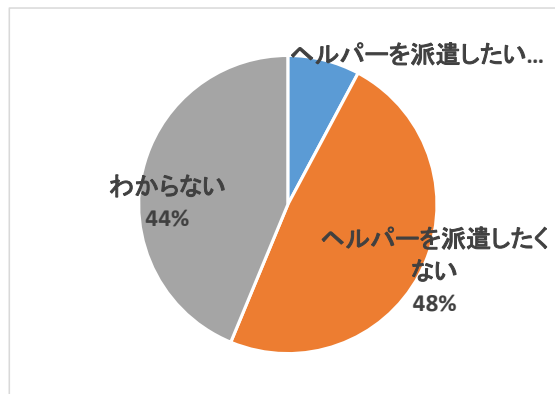
自宅療養、入院いずれも「ヘルパーを派遣したくない」が多い結果となりました。ただ、理由として「ほかの利用者の感染リスクがある」を挙げる事業所が圧倒的で、次に多かった「人手不足でシフトが組めない」も合わせると、「派遣したいが、できる状況にない」事情が浮かびました。

小規模事業所のため、感染したらほかの利用者へのサービスができなくなるので派遣に踏み切れないが、感染予防策など条件が整えば派遣したいという意向も見える結果となりました。

<自宅療養の場合>



<入院の場合>



回答にかかわらず、「派遣できるならしたい」という考えが大多数でした。「ほかの利用者への感染リスクを懸念している様子」がうかがえます。

「派遣したくない」と答えた障がい者事業所は、すべてがヘルパー数10人以下の小規模事業所でした。規模にかかわらず「人手があれば」という回答が目立ちました。

#### 「派遣したい」と思う主な条件

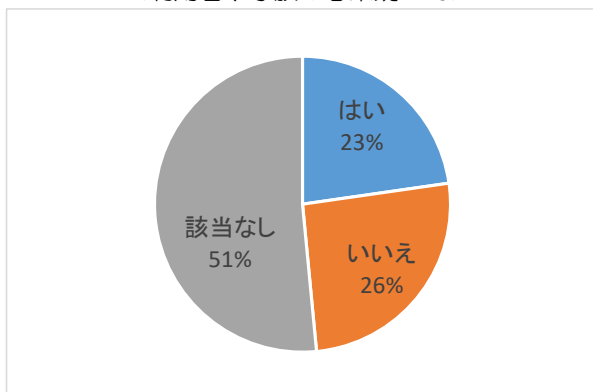
- 一部の職員の派遣にとどめられるなら
- 時間やサービス内容を限定できる場合
- 独居でほかに世話する人がいない場合
- 感染防止策やPCR検査などが担保されるなら
- 必要最低限のサービスにできる場合
- 換気、防護服、マスクなど了承が得られるなら

入院したら「医療機関に任せたい」という理由が多く、次に「感染予防策やPCR検査など安全が担保されたなら」「短時間、サービス内容を限ることができるなら」という回答もありました。

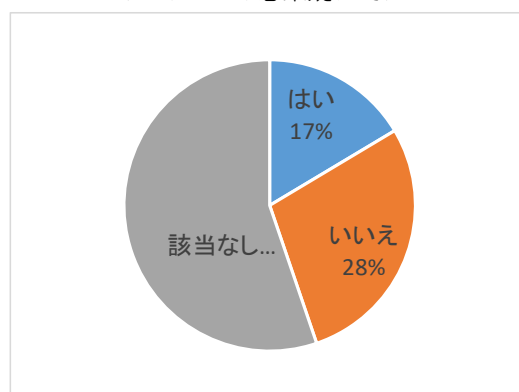
「わからない」のうち、「病院へのヘルパー派遣経験が少ないため」と踏み切れない理由を挙げる事業所もありました。

### ■利用者やその家族、ヘルパーの発熱や感染疑いで派遣予定を変更したことがある

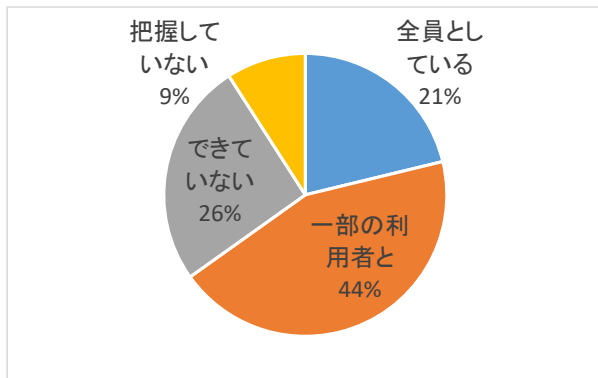
<利用者や家族の感染疑いで>



<ヘルパーの感染疑いで>

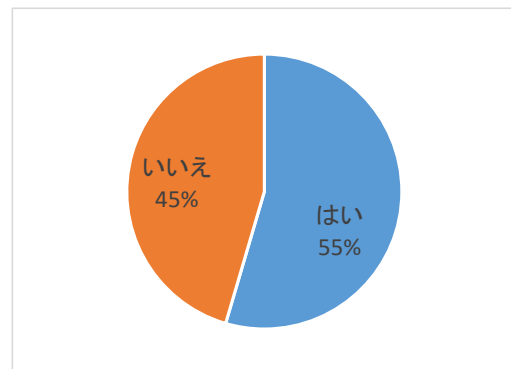


■ヘルパー派遣ができない場合、家族や他事業所など代行体制を利用者と確認している



一部の利用者と確認している事業所が半数近い結果に。ただ、「確認できていない」「把握していない」のいずれも、利用者数20~49人の事業所が半数でした。相当数の利用者にヘルパーの代行体制がないのが現状です。

■利用者やヘルパーがコロナに感染した場合に備えた、他事業所と連携や連絡を取る体制を取れているか



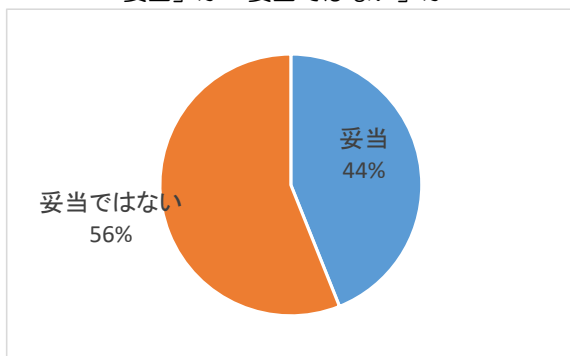
連携や連絡の体制がある事業所がやや多い結果になりました。

「連携していない」という回答のうち、小規模事業所ほど比率がやや高いのが特徴的で、利用者へのサービス以外に余裕がない証左かもしれません。

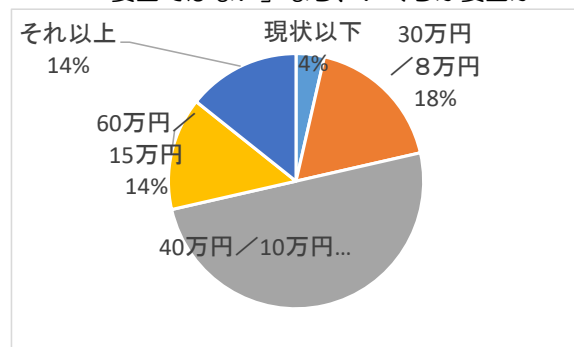
■国が支給する介護従事者への慰労金の額は妥当か

(患者に関わった：20万円／関わらない：5万円)

「妥当」か「妥当ではない」か



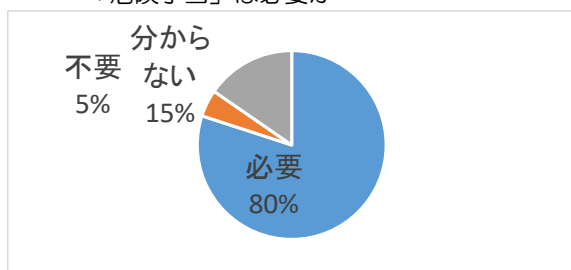
「妥当ではない」なら、いくらが妥当か



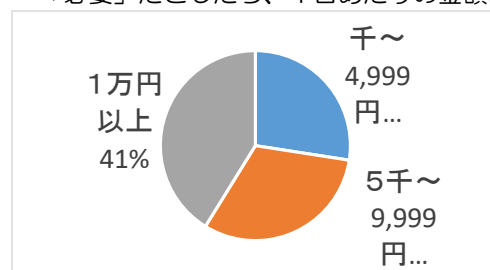
「妥当ではない」がやや上回りました。その妥当な金額は現状以上が9割以上となり、ちょうど2倍の「患者に関わった40万円／関わらなかった10万円」が半数となりました。利用者の多い事業所ほど「妥当」と答えた傾向がありました。

■感染した利用者を介助した場合、慰労金と別の「危険手当」は必要か

「危険手当」は必要か



「必要」だとしたら、1日あたりの金額は



「危険手当は必要」は8割の事業所が回答し、その金額として、「1日当たり1万円以上」が4割で、「999円以下」を選択した事業所はゼロでした。利用者数など規模で回答の傾向に偏りはありませんでしたが、利用者数20~49人の事業所は「1万円以上」を、それ以上の利用者数の事業所は「5千~9999円」を答える傾向がやや見られました。

## ■ヘルパーや利用者からケアに関して不安に感じる訴え

### <事業所の不安>

- ・利用者の体調不良時どう対応すれば
- ・気をつけていても感染する可能性がある
- ・利用者の発熱時、神経質になる
- ・感染したら誹謗中傷があるのでは
- ・持病があるヘルパーがいる
- ・感染が嫌だから辞めたいという職員がいた
- ・デイサービスの利用者間での感染拡大が不安
- ・利用者に感染させてしまう可能性が不安
- ・感染者が出た病院への通院介助
- ・子どもが小さいヘルパーはリスクが高い
- ・認知症の利用者がコロナを理解できない
- ・感染予防をどこまで行えばいいのか
- ・ワイドショーなどの情報は不安を高める

### <ヘルパーの不安>

- ・無症状かもしれないので介助に不安がある
- ・発熱した利用者宅への訪問が不安
- ・体調の変化には訪問しないと気付けない
- ・介助は体が密着するので感染リスクが不安
- ・利用者が感染して、コロナが持ち込まれたら
- ・感染リスクを知らながら外出する利用者がある
- ・利用者がマスクをすると表情が分かりにくい
- ・利用者にマスク等を着用している姿を不審がられる
- ・感染者への介助は必要だが、自分の家族への感染も心配
- ・感染することより、させることが気になる
- ・感染予防が本当に正しいのか
- ・発熱がコロナかどうか区別できない
- ・職業柄、優先的にPCR検査を受けたい
- ・自分の家族への感染が心配
- ・入浴など対面介助の時間配分に悩む
- ・マスクも万全ではないので不安はある
- ・発熱した利用者宅への訪問をためらう

### <利用者の不安>

- ・通院したいが感染が心配
- ・通院で感染してヘルパーに感染させたら
- ・ヘルパーに感染させているかもと不安
- ・ヘルパーから感染したらと考える
- ・感染して入院したら、ヘルパー派遣が受けられるのか
- ・いつ外出を再開していいのか分からない
- ・外出が不安で、以前より外出が減った
- ・外出制限によるストレス
- ・入院中、十分なケアが受けられるのか

## ■コロナ対策に関する意見

- ・利用者感染の場合、対応職員を通常より減らすことが重要
- ・ワクチンが早く完成してほしい
- ・マスクや消毒、手洗いが有効と報道され、対策を取れた
- ・慰労金より「手当」にしてほしい
- ・慰労金の基準が厳しい
- ・利用控えに伴う減収を補填する制度がほしい
- ・行政が研修するなど統一した対応策がほしい
- ・感染リスクがあり、ヘルパーと事業所の負担が大きい
- ・PCR検査など感染がすぐ分かる手段が欲しい
- ・感染者が出たら、事業所経営に与える影響が大きい
- ・行政は現場目線の情報発信をしてほしい
- ・市町村単位で介護現場の不足物資を調べてほしい
- ・利用者も事業所も思いやりをもって困難を一緒に乗り切りたい
- ・コロナ対策の正しい理解をもっと広めていく必要がある
- ・国の布マスクは使い道がなかった。慰労金にするなど有意義に使ってほしい
- ・陰性の証明がないと、利用者は通所や通院ができない。
- ・職員のメンタル面が心配
- ・事業所に支援金が出る仕組みが欲しい
- ・疲れているので、早く終わって欲しい
- ・自粛を求めすぎてストレスがたまる
- ・国として対応の統一した基準が欲しい
- ・手袋など物品を優先的に供給してほしい
- ・マスク、手洗い、消毒を徹底する
- ・人手不足で職員に休暇をあげられない
- ・外出しやすい対策を示してほしい
- ・小規模事業所では対策しきれない

## ■アンケートを終えての考察

### 「鳥インフルエンザを横目にみながら」

小山内 美智子 (NPO法人札幌いちご会 代表)

重度障がい者がコロナにかかった時、どうすればよいのか私には思いつかなかった。誰に対しても絶対にケアに来てとは言えないが、障がい者にも生き、治療を受ける権利がある。ケアの受け方・仕方を悩んでいる人たちと看護師さんが連携し、安心してケアと治療を行うために、重度障がい者がコロナになった時を想定したマニュアルを作り、トリアージ差別が起きないようにしたい。

また重度障がい者が病院で正しいケアを受けられない理由の一つは、医療教育に障がい者のケアが含まれていないからだ。医学だけでなく障がい者のケアも一緒に学ぶべきだ。私の経験では、コロナ以前から医療関係者が障がい者の意見を聞かないことは問題だ。

鳥インフルエンザで鶏たちが土に埋められるニュースを見るにつけ、今の私たちの生活からは考えられないことが起きるかもしれないと恐ろしくなる。障害を持ちながら感染症になった人たちが、心地よくケアを受けられる世界はあるのか。全てこれからの未来が決める。

### 「一人のヘルパーとして考えたこと」

角田 紘世 (NPO法人札幌いちご会)

人によってコロナ対策に関する考えが違うことを、私もケアに派遣されると感じます。どこまで利用者に対策を求めて良いのか、また自分の対策が十分であるのか、ヘルパーとして決めることは難しく、利用者側の意見を聞くことも必要です。

以前はケア中に防護服を着て感染しないよう気を付ければ良いと思っていました。しかし最近耳にする話では、同居家族がいる場合はホテルに泊まるなどの対策があるとのこと、入院した場合は利用者と一緒に軟禁状態になる可能性もあるとのこと。そのような話を聞くと、困っている利用者を助けたいと思っても躊躇する気持ちも出てくると思います。手当が出たら良いのか、どんな条件だったらできるのか、など答えは見つかりません。

### 「困りごとを、社会を変えるテコに」

萩谷 海 (ヘルパーステーションいちご ヘルパー)

アンケート調査中に、当事者が自立生活のために運営する事業所とも電話などでお話をする機会があり、人員不足や、メールアドレスがない、機器を使えないなどデジタル格差を感じた。インフラ整備・助成金応募等をする余裕もなく、アンケートに答える時間もない。障がい・高齢者、ヘルパー、事業所の資金や社会的資源の不足は深刻だ。若いヘルパーでも、スマホで得られる以外の情報検索の仕方を知らず、その声を行政にあげたり、オンライン会議を行うなどのスキルや行動、支援につながらない。私たち全員に社会を変えていく知恵や経験はあるので、その声を拾えるような仕組みづくり（そして騒ぎ続けること）が、すべての底上げになるだろう。これは家庭内などの見えないところで、ケアをする・される人々にも当てはまることだ。ひとまず当事者・ヘルパー・事業所への教育やデジタル化への支援や助成を強く求める。

## ■このアンケート結果を読んでもくださった皆様へ

コロナウィルス対策は、事業所や病院だけで解決できるものではありません。今回は集計に携わったいちご会のヘルパーたちの率直な意見も聞きました。また回答者の半数以上から自由記述の意見をお寄せいただき、本アンケートの質問原文や結果などもあわせていちご会HPでお読みいただけます。

障がい者・高齢者当事者、ヘルパーの皆さんは、ぜひ日々感じていることを、正直に書いてください。その言葉が行政や政治に届くのです。無口では、何も始まりません。コロナ予防や治療について皆さんがどう考え、どのような行動をとっているのか皆さんの声をぜひお聞かせください。



